

製品名: RDM1 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab16987

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	RDM1
別名	RDM1; RAD52B; RAD52 motif-containing protein 1; RAD52 homolog B
遺伝子 ID	201299.0
SwissProt ID	Q8NG50
免疫原	抗血清はヒト RDM1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 118-167

背景

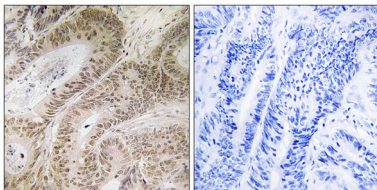
この遺伝子は、化学療法で一般的に使用される薬剤であるシスプラチンに対する細胞応答に関与するタンパク質をコードしています。この遺伝子によってコードされるタンパク質には、DNA 二本鎖切断および相同組換えに機能するタンパク質 RAD52 に見られる

モチーフと、RAD52 には見られない RNA 認識モチーフ (RRM) という 2 つのモチーフが含まれています。RAD52 の RAD52 モチーフ領域はタンパク質機能に重要であり、DNA 結合またはオリゴマー形成に関与している可能性があります。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月];注意:ここに示す配列は Ensembl 自動解析パイプラインから得られたもので、予備データとして考えてください。、ドメイン:C 末端側半分 (アミノ酸 134-284) には、細胞質保持ドメインと、ストレス誘導性核小体蓄積に関与する決定因子が含まれています。、機能:抗腫瘍剤シスプラチンに対する耐性を付与する可能性があります。DNA と RNA に結合します。、誘導:熱ショックストレスは、アイソフォーム 10 およびアイソフォーム 11 の mRNA 発現を上方制御しました。熱ショックストレスは、アイソフォーム 2、アイソフォーム 4、アイソフォーム 6、およびアイソフォーム 9 の短い N 末端 mRNA 発現を下方制御しました。、類似性:1 つの RRM (RNA 認識モチーフ) ドメインを含みます。、細胞内局在:アイソフォーム 1 は主に細胞質にあります。アイソフォーム 3 およびアイソフォーム 10 は、主に核小体および核小体に局在する。プロテアソーム阻害剤および軽度の熱ショックストレス処理後、アイソフォーム 1、アイソフォーム 3、アイソフォーム 5、アイソフォーム 7、アイソフォーム 8、およびアイソフォーム 10 は、点状または不規則な核内構造として核小体に再局在する。アイソフォーム 1 は、核小体前骨髄球性白血病 (PML) およびカハール小体 (CB) と共局在し、この核小体との関連はタンパク質毒性ストレスへの応答によって増強される。アイソフォーム 3 は、転写停止時に核小体帽部に再局在するが、アイソフォーム 1 およびアイソフォーム 5 は再局在しない。、サブユニット: ホモ二量体。、組織特異性: 精巣で発現。、

研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達; クロマチン結合タンパク質; DNA/RNA 結合

画像データ



RDM1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。